

平成 28 年度幼児教育の推進体制構築事業成果報告書（概要）

1. 調査研究テーマ

- (ア) 「幼児教育アドバイザー」育成・配置に関する調査研究
- (イ) 「幼児教育センター」の設置に関する調査研究
- (ウ) 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

2. 平成 28 年度に実施した主な調査研究内容

(1) アドバイザー訪問施設数（平成 29 年 3 月 31 日時点）：

幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園		地方裁量型 認定こども園		小学校
8/13 園			0 園			0 園			9/15 所		0 園		0 園		1/18 校
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	
0 園	1/1 園	7/12 園	0 園	0 園	0 園	0 園	0 園	0 園	3/3 所	6/12 所	0 園	0 園	0 園	0 園	

※アドバイザー配置人数：3人

※アドバイザーの最終経歴：前市保育所所管課長、元小学校教諭（ことばの教室担当）
現公立幼稚園副園長

(2) センターの設置：

- ・ 設置年度：設置済み（平成 28 年度 4 月）
- ・ 設置形態：部署間連携により代替

(3) その他幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

- ・ 舞鶴市乳幼児教育推進体制構築事業検討会議
- ・ 乳幼児教育の質の向上研修
 - ① 子どもを主体とした保育研修
 - ② 保幼小連携研修
 - ③ その他研修（保幼小中連携研修等）
- ・ 保幼小接続カリキュラム研究（舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議）
- ・ 乳幼児教育ビジョンの周知（講演会、説明会、広報紙等で保護者や市民へ情報発信）
- ・ 事業の普及・啓発（学会等での事業発表、雑誌掲載、視察・調査受入）
- ・ 他市事例研究（高知県、福井県）

3. 成果

(1) アウトプット

- ・ 乳幼児教育の質の向上研修
 - ① 子どもを主体とした保育
 - ◇公開保育・カンファレンス 5 回
 - ※公開園同士の事前勉強会の実施、公開園に事前にコーディネーターや相談員が訪問し、園の環境や保育、公開保育指導案について協議。
 - ※保育を見る視点を定めるために「子どもの姿記録シート」を作成し、公開保育参加者が公開時の子どもの姿を記録。
 - ◇グループ研修 5 回
 - ※グループワークのためのワークシートの作成、領域や年齢発達の資料を準備。
 - ※グループワークを園内研修として活用するためにリーダーとなる主任級を対象に実施。
 - ② 保幼小連携研修：3 回
 - ※連携協力園・校の年長児担任、1（2）年生担任を対象とし、計画、実践（公開授業・保育）、評価の連続研修を実施、各園・校の「連携活動実践シート」の作成
 - ③ その他研修：保幼小中連携研修会 2 回
 - 現地研修（講師による大学附属幼稚園の研究会への参加等） 3 回

- ④ 普及・啓発:研修ニュースレターの発行9回、報告会の開催1回(事業説明・報告、公開園報告、ドキュメンテーションの掲示)
※全事業の説明・報告、公開園からの報告、講師のコメント、講演、ドキュメンテーションの掲示を実施、参加者の振り返りとなる。また土曜午後の開催により、それぞれの研修には参加できなかった職員も参加

- ・ 保幼小接続カリキュラム研究:舞鶴市保幼小接続カリキュラム策定会議 3回開催
- ・ 舞鶴市乳幼児教育推進体制構築事業検討会議:2回(市民代表委員意見交換1回)
- ・ 乳幼児教育ビジョンの周知:講演会2回、説明会2回、小学校授業1回、広報まいづる特集1回 FMまいづる出演2回
- ・ 普及・啓発:日本保育学会シンポジウムで報告、雑誌掲載、視察・調査受入
- ・ 他市事例研究:高知県幼児教育の推進体制構築事業シンポジウム参加、福井県幼児教育支援センター視察
- ・ 公開保育はもとより公開前の事前勉強会や保幼小連携研修では、互いに相談したり、参考にしたりと、公私・園校種を越えて同僚性を育む機会となった。
- ・ 公開保育をきっかけに、乳幼児教育コーディネーターが園を訪問し、保育や環境を見てアドバイスしたり、公開時の指導案について協議したり、園に訪問する機会が増えたことや保育についていっしょに協議した。
- ・ 公開保育実施後の聞き取りでは、公開保育をしたことで、保育者同士の話し合う機会が増えたり、助言を受けて環境を見直したりして、保育者や子どもの姿、保護者が変わってきたという声が聞かれた。コーディネーターやセンターによるバックアップについても、勉強会の実施や園訪問により心強かったとの意見があった。
- ・ グループワークを園内研修に活用できるようにワークシートや年齢発達資料等を作成し、工夫を重ねる中で園内研修をするために保育のリーダーとなる主任級への研修を実施した。

(2) アウトカム

- ・ 保幼小連携では、教育委員会と連携して連携協力園・校を指定し、生活科を中心とした連携活動をどの園・校でも実施できる体制をつくり、年間を通じて継続して連携活動を実施することができた。また、保幼小連携研修では「計画」「実践」「評価」の連続研修としたことで、連携活動も充実してきている。
- ・ 報告会は、参加者の振り返りとなる効果と、研修には参加できなかった職員が事業の中で学んだことを知る機会になる。公私・園校種を越えて、市全体のものとして捉えてもらうことができた。

4. 上記を含めた、平成29年度の実施計画

- ・ 乳幼児教育の質の向上研修
 - ① 子どもを主体とした保育:公開保育・グループワーク4回、事前勉強会等3回、ドキュメンテーション研修4回(保育リーダー向け研修、フレッシュ向け研修)
 - ② 保幼小連携研修:3回 計画、実践(公開)、評価
 - ③ 保幼小中連携研修
 - ④ 研修ニュースレターの発行
 - ⑤ アンケートの実施(研修の効果、コーディネーターの役割等を検証するもの)※上記の研修全体の体系化(フレッシュ向け、リーダー向け研修に分け、内容も対象者に合わせて)
※乳幼児教育コーディネーターや相談員が園を訪問し、公開保育のコーディネートとサポートをする。(園内研修等の充実のため園訪問を実施)
- ・ 全体会6月、報告会・乳幼児教育フォーラム12月
※近隣市町村、府、委託事業研究自治体へ案内

No. 12 舞鶴市

- ・ 保幼小接続カリキュラム策定会議：4回
- ※「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をベースにおきながら、乳幼児教育ビジョンと小中一貫教育をつなげた0～15歳までを見通したものを作成する。連携活動や10の姿を意識した事例を収集する。
- ・ 乳幼児教育の推進体制構築事業検討会議2回
- ・ 普及・啓発：事業発表（日本保育学会 ポスター発表）
- ・ 乳幼児教育ビジョンの周知（園の取組支援、保護者等市民への発信）
 - ① ビジョン通信作成
 - ② 主任児童委員へ「乳幼児教育ビジョン」説明会を実施
 - ③ 講演会の実施

舞鶴市が「乳幼児教育センター」の機能を有し、
各分野をつなぐ「乳幼児教育コーディネーター」を配置する

